

米国における小児がん患者の心のケア

土屋 信子

ルリー小児病院 血液腫瘍科／ノースウエスタン大学医学部 小児科

小児がんの5年生存率は、分子レベルでの解析、治療方法や支持療法の進歩により、ここ40年ほどの間に、10%から80%を超えるまでに改善した。(https://curesearch.org/5-Year-Survival-Rate) それによって、患者のクオリティーオブライフ(QOL)や心のケアがより一層重要視されている。小児がんの診断による患者本人や両親のストレスは言うに及ばず。患者の兄弟たちの心理面や生活面での負担も大きく、心のケアや他の各種のサポートが非常に大切になってくる。がんの種類によっては、数年に及ぶ治療が必要なこともあり、また、非常に強力な化学療法、放射線療法、外科手術が患者や家族に及ぼす影響は大きく、確固としたサポートシステムが必要とされる。

そのようなケアには、医師や看護師だけでなく、心理療法士、チャプレン、ソーシャルワーカー、チャイルドライフスペシャリスト、アートセラピスト、ミュージックセラピストなどの複数の職種の人々によるチームワークが必須である。このような人たちは、全て、大学以上の教育を受け、施設の規模にもよるが、小児がん専門の訓練を受けている人が多い。ボランティアや病院内外の各種サポートグループの存在も、患者や家族には大きな支えとなっている。

これらのようなことを中心に、実際に米国で小児がんの診療に携わる者としての経験をお話したい。

参考サイト

<https://www.alexslimonade.org/campaign/supersibs-sibling-support-childhood-cancer-families>

<https://www.luriechildrens.org/en-us/care-services/family-services/people/Pages/child-life-specialists.aspx>

<http://www.childlife.org/certification/students/requirements-for-2019-2022>